

令和7年度学校経営報告

八王子市立宮上中学校
校長 鷲尾 仁

1 学校経営の基本方針と今年度の重点

本校は「自主・創造・協同」の校訓のもと、①学力の保障 ② 社会性を身に付ける ③ 自己表現力（自己開示力）の育成 を使命とし、教師と生徒が共に成長でき、皆の誇りとなる学校を目指す理想像として教育活動を推進してきている。

令和7年度は特に、

- ・主体的・対話的で深い学びの実現
 - ・社会性を育てる生活指導の充実
 - ・小中一貫教育の強化
 - ・不登校支援体制の整備
 - ・ICT活用とカリキュラムマネジメントの推進
- を重点として取り組んだ。

2 教育活動の成果

(1) 学習指導の成果

●主体的・対話的で深い学びの定着

- ・全教科で「学ぶ意味の明確化」「対話活動の充実」「探究的な課題設定」を推進した。
- ・ICT活用（1人1台PC、実物投影機、プロジェクター）により、思考の可視化・共有が進んだ。

●基礎・基本の定着

- ・週27コマ授業の安定実施により、学習時間を確保できた。
- ・基礎事項の正答率「80%の生徒が80%以上」を目標に掲げ、主要教科で昨年度比の向上が見られた。
- ・定期考査・学力調査・英語スピーキングテストの結果を分析し、授業改善に反映できた。

●家庭学習の定着

- ・家庭学習スタンダードの活用を徹底を図れた。
- ・オンライン教材の利用率が向上し、家庭学習時間の増加が見られた。

(2) 生活指導・進路指導の成果

●初期指導の徹底

- ・4月の生活指導週間で、宮上スタンダード・SNSルールを全学年で統一指導した。
- ・学校生活がスムーズにスタートし、学級経営の安定につながった。

●社会性の育成

- ・あいさつ運動の定着、時間を意識した行動の改善が見られた。
- ・掲示物の整備・清掃指導の強化により、学校環境が向上した。

●不登校・いじめ対応

- ・毎月の生徒アンケート（Q-U含む）を活用し、早期発見・早期対応を実施できた。
- ・スクールカウンセラー3名、不登校巡回教員との連携が強化され、たんぼぼ教室の利用が安定し、復帰につながるケースも増加した。

●進路指導

- ・職業疑似体験、職場体験など、キャリア教育を計画的に実施し、基礎的・汎用的能力の育成を図った。
- ・進路決定に向けた面談・ガイダンスを充実させ、進路満足度が向上した。

(3) 特別活動・道徳の成果

- ・体育祭・合唱コンクールの実行委員会活動が活性化し、生徒の主体性が顕著に向上した。
- ・生徒会活動の広報が改善され、活動内容が全校に伝わりやすくなった。
- ・道徳授業の研究を継続し、ICTを活用した対話的授業が増加した。
- ・体力向上の取組により、体力テストの平均値が昨年度比で改善した。

(4) 小中一貫教育の成果

- ・宮上小・下柚木小との連携が深化し、生活指導の共通理解が進んだ。
- ・小中交流（授業体験、行事協力、合唱コンクールの発表連携）が充実した。
- ・9年間の学びの連続性を意識したカリキュラムの検討が進んだ。

(5) 特別支援教育の成果

- ・個別指導計画・個別の教育支援計画・授業観察記録を全対象生徒で作成し、活用が定着した。
- ・1組と通常学級の交流・共同学習が増え、インクルーシブ教育が前進した。
- ・生徒理解の時間（特別支援委員会週1回）を活用し、支援の質を向上させた。

3 学校運営の成果

● 校務改善・働き方改革

- ・校務支援システムの活用が進み、週案・諸帳簿の作成が効率化した。
- ・経営支援部による業務見直しを実施し、教員の負担軽減に寄与している。
- ・若手教員のOJTが機能し、授業力・事務処理力の向上が見られた。

● 地域・保護者との連携

- ・ホームページの更新頻度が向上し、学校の取組が可視化された。
- ・地域行事への参加が増え、生徒の地域への帰属意識が高まった。
- ・保護者連絡のデジタル化が進み、紙媒体の削減を実現している。

4 課題と今後の改善方向

(1) 学力保障

- ・基礎学力の定着には学習習慣のさらなる強化が必要である。
- ・ICT活用の質の向上、探究的学習の深化が課題となる。

(2) 生活指導

- ・SNSトラブルの未然防止に向けた継続的な指導が必要である。
- ・生徒の自己コントロール力の育成をさらに強化する。

(3) 不登校支援

- ・たんぼぼ教室の活用は進んだが、**復帰支援の個別化**が今後の課題となる。

(4) 小中一貫教育

- ・カリキュラムの共通化をさらに進め、9年間の学びの体系化を図る必要がある。

(5) 働き方改革

- ・校務支援システムの活用に差があり、教職員間のスキル均一化が課題である。

5 総括

令和7年度は、「主体的に学ぶ生徒の育成」を中心に、学習指導・生活指導・特別活動・小中連携・不登校支援など、学校全体で一体となった取組が進んだ一年であった。生徒の学びの質は確実に向上し、社会性や主体性の面でも成長が見られた。一方で、学習習慣の定着や不登校支援の個別化など、引き続き取り組むべき課題も明確になった。来年度は、今年度の成果を基盤として、「**学びの質のさらなる向上**」「**生徒理解の深化**」「**地域とともにある学校づくり**」を柱に、学校経営を進めていく。